

## 学び合い、生き生きと活動する児童の育成

### I 研究の内容

#### 1 研究目標

「学び合い、生き生きと活動する児童を育成する」ために、今までの研究を振り返り、今ある日川小の子ども達の実態と「伝え合う力」との関連を探るとともに、「伝え合う力」と関連させて日川小独自の教育課程を創る。

#### 2 研究の内容

- (1) 「教育課程部会」「授業作り部会」の2部会制に分かれ、子ども達の実態を洗い出す。
- (2) 「学び合い、生き生きと活動する」ためのめざす児童像の確認
- (3) 「学び合い、生き生きと活動する」場の設定・教科・教材の洗い出しやその工夫
- (4) 評価（自分の伸びを実感する場）…変化をみとるもの  
認め合う場の工夫  
学級集団づくり
- (5) 授業実践・研究授業 一人一実践  
自分から声を掛け、見てもらったり、見せてもらったりしながら教師自身の力量を高めていく「研修の場」としていきたい。
- (6) 他校の実践や講師から学ぶ。

#### 3 授業実践

- 第2学年 国語「音やようすをあらわすことば」 佐野 理恵
- 第5学年1組 学級活動「学級オリンピック大会をしよう」 岩下 秀人

### II 成果と課題

#### 1 成果

- ・この研究主題を設定することで、学習活動や教材について研究する時に、ただ子ども達に知識を教えるだけでなく、子ども達の考えや行動により寄り添って考えることができた。
- ・検証的な研究ではなく、開発・実践的な研究が行えた。
- ・2つの研究授業から、話し合いの進め方、発表の方法、グループ編成、など多くのことを学ぶことができた。また、日常の先生方の授業を参観しながらも、板書の仕方、子ども達への言葉がけ、教材についての考え方、子どもへの見方、授業構成、授業へ

- の取り組む姿勢など、多くのことを学ぶことができた。
- ・授業の中だけの取り組みではできない部分を、日常的な取り組みとして行っていることは、大変有意義だと思った。
  - ・児童の実態から、目指す児童像にむかって子どもたちを育てていこうとする意識が職員全体にあることを感じた。また、本校なりのキャリア教育ができたこともよかった。
  - ・研究主題にせまる児童が、育成してきていることは、大きな成果である。また新学習指導要領の完全実施に向けて、本校なりのキャリア教育の方針ができたことも素晴らしかった。来年度は、キャリア教育を実践する中で、よりよいものを作っていく必要性を感じる。
  - ・今年の校内研究会は、日川小学校の教育活動のよい点を探し、それを発展・継承させていきたいということでスタートした。授業づくり部会や教育課程部会の提案を聞きながら、日川小学校のよさがわかり、それをみんなで共通理解できたことがとてもよかった。特にキャリア教育の視点に立った教育活動はこれからも引き続き研究実践していきたい。
  - ・新しい分野での授業実践が行われた。

## 2 課題

- ・2つの部会にわかれたことによって、それぞれの部会の中で研究についての意見交換や情報交換をすることができた。ただし、2つの部会の連携については多少課題がある。
- ・今年度新しく手をつけた部分をもう少し深めていきたい。
- ・本年度、作成したキャリア教育の実践。
- ・限られた時間のなかで、学校にとって何が必要なのか、どのような教育活動を進めていかななくてはならないのかを、教師一人一人が認識し、形だけの研究にならない、研究のための研究にならない、校内研究をすることが必要だと思う。
- ・学び合いのある授業づくりとともに、子ども達の読書力を育成するための取り組みについても研究実践していきたい。

(研究主任 古屋 美知子)